



日本共産党市会議員 かたやなぎ 進

片柳すすむ 市政報告

発行 日本共産党 川崎市議会議員団
川崎区宮本町1番地 第2市庁舎7階
TEL 200-3360 FAX 245-4140
その他の連絡先 TEL 246-6823

「臨海部ビジョン」 — 地域住民の声を聞かずに進めていいのか

臨海部企業をめざす「未来」を川崎市が主導して実現?

3月16日まで開催された川崎市議会第1回定例会の予算審査特別委員会で片柳市議は、教文会館の閉鎖統合、川崎区の自転車通行環境整備、区内道路の停止線・横断歩道などの標示のあり方などについて質問しました。そのほか、委員会や調査の内容も含めて、ご報告いたします。

第33号で紹介した「川崎アプローチ線」は、市の『臨海部ビジョン』を「先導する事業」とされています。

市はこの『臨海部ビジョン』を「川崎臨海部が発展し続け、世界の模範となる産業拠点となるよう企業をはじめとする皆様とともに30年後を見据えた計画」として「30年後に企業がありたい臨海部の未来像を企業関係者や研究者らで話し合い、そこから逆算で計画を立てる…」という手法で策定しています。企業にとつてあまりに都合のいい計画なのです。それならば当然企業自身の責任で行うべきですが、「多様な主体が協働する」と言いながら、ほとんど川崎市の主導で行う内容になっています。こうした諸問題について、市議会で共産党は批判してきました。

片柳市議が川崎区の住民団体や市民から意見を聞いたかどうか、市の担当者に確認したところ「意見聴取は行っていない」との回答でした。

市民の切実な福祉制度は『行革』で削減の対象にしながら、臨海部の周辺住民の意見も聞かず、さらには採算性に課題がある「300億円の川崎アプローチ線」など、臨海部ビジョンを先導する事業には前のめりに…。こうした市政のあり方を変えていく必要があると思います。

教文会館の今後 — 労働会館駐車場の活用を

片柳市議は川崎区における市民館のあり方について質問。

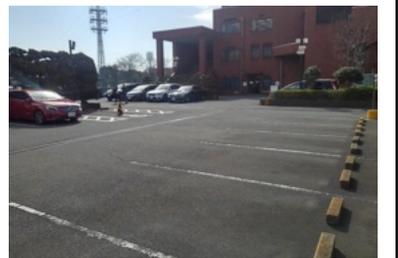
労働会館の1〜3階に移転する教文会館の市民館機能は約半分の床面積に、同じく同館の4〜5階に集約される労働会館機能は3分の1の床面積に縮小されることになる、と指摘。

さらに「労働会館の駐車場は、教育文化会館の大会議室（定員300



川崎アプローチ線予定地を視察する市議員

人)の約2倍の面積がある。この条件をふまえて市民の意見をまっすぐ受け止めて市民館のあり方の検討を」と求めました。



労働会館駐車場には十分な面積が

労働会館ホールの搬入口への導線が利用しにくく、さらに駐輪場が会館の裏手にあるので使いにくいことなども指摘、この機に市民とともにあり方を検討するよう求めました。

自転車通行の環境整備を

片柳市議は自転車通行環境の整備について、川崎区では高齢の自転車利用者が多く、「特性や実状にあった形で整備を進めべきでは」と質問。建設緑政局長は「地域の実情を踏まえ検討したい」と答えました。

さらに「市の調査でも、川崎区は川崎駅に向かって住宅地から自転車が集まる特徴が際立っている」と指摘。住宅地から川崎駅への縦軸方向で、自転車通行環境の整備を求めたところ、建設緑政局長は「自転車通行環境の整備済み路線を活用するよ



本来は「車道の左側」が原則ですが、矢印のような「逆走」が度々…(左の自転車はルール通りです)

う検討したい」と答えました。

さらに車道の右側を走る危険な「逆走」への対策については「注意を促すシートの表示や啓発をする」と、国道15号線の自転車通行帯を東方面は国道409号線、西方面は横浜市境まで延長するよう求めたことについては「市も国と連携して取り組みたい」との回答でした。

片柳市議は、新川通り、市役所通り、さつき橋水江町線など、縦方向での通行環境整備についても対応を要望しました。

海底トンネルの案内標示 八丁畷駅前道路改善

①川崎港海底トンネル

川崎港海底トンネル(東扇島-千鳥町間)の人道に「この自動ドアは非常時には手動で開けられます」との貼紙が掲示されました。



②八丁畷駅前道路

地域の長年の懸案だった八丁畷駅前の見通しの悪い道路の改良工事が進んでいます。4月中旬には車道と一部の歩道が開通し、市民の利用が始まっています。



大島上町在住
石倉美恵子さん

後期高齢者医療―費用負担がはね上がった大変

私はこの1月で後期高齢者となりました。これまで医療費が1割負担だったので病院にいても「こんなに安くていいの？」と思うこともありましたが、しかし今度は後期高齢者医療制度になり3割負担になってしまいました。持病の通院でも薬ももろって毎回千円を超える負担になります。がんを患った夫の血液検査

2018年度の各常任委員会

2018年度の市議会常任委員会が決まりました。各委員会の日本共産党議員を紹介しました。

	◎委員長	○副委員長	
総務委員会	佐野 仁昭	齊藤 隆司	大庭 裕子
文教委員会	◎片柳 進	石田 和子	
健康福祉委員会	市古 映美	渡辺 学	
まちづくり委員会	○宗田 裕之	石川 建二	
環境委員会	○井口 真美	勝又 光江	

などはさらに大きな負担になります。夫も私も年齢相応に病院に行く機会も増えており、支払いの額の高さにびびりしています。「年寄りのじめ」のような制度は本当におかしいと思います。

また、いつも通る特別養護老人ホームには、職員募集の貼り紙がずっと貼りっぱなしで、夜には上の階に電気がついていない部屋があるようです。「介護職員の人手不足で、入所待ちの人が大勢いるのに入れなくてすれば何たる事」とつねづね思っています。

子どもにも、老人にもやさしい、もっと国民のことを真剣に考える政治にしてほしいと思います。

消えて見えない道路の停止線や横断歩道帯の早期改善を!

片柳市議は、横断歩道や停止線など、道路の標示について質問しました。



停止線・横断歩道が見えない…「小田1丁目」交差点

天飛トンネル隣の小田1丁目交差点について「横断歩道も車道の停止線もほとんど見えない」「近所の80代の方から『車がオーバーランしてしまうので、信号が青になっても怖くてうかつに道路を渡れない』と

の声を伺っている」と指摘し、この交差点や、同様の箇所について対策を求めました。市民文化局長は「関係機関との連携を図っていく」と述べました。

片柳市議は、「住民を含め、地理に不案内な方にとっても、道路標示が見えない状態はきわめて危険」と指摘、県など関係機関に強く要望するよう求めました。

利用者が増えたハローブリッジの足下灯など夜間照明を明るく

片柳市議はハローブリッジ（川崎区役所前）の安全確保について質問。「カルツかわさき」が事業を開始したため、夜間でも通行する利用者が増えており、有名人のイベントも多く、市の内外から「初めて訪れる」方も多く、高齢者から「夜間は暗くて歩くのが怖い」との声が出ていると指摘し、歩道橋の階段部分に足下灯の整備や、2階部分についても、もっと照明を明るくすることを求めました。



救命救急センターなど増設―川崎病院再編整備計画

市立川崎病院（新川通）の再編整備基本計画（図）が発表されました。がん診療機能を拡充することにも、がん診療機能を拡充することにも、病院西側（新川通町内会館前）敷地内の公園エリアに4階建ての「救命救急センター棟」が増築（2025年度までに予定）されます。現在、地下にあり浸水の恐れがあるエネルギー関係設備は、現在の駐輪場に建設（2021年までに予定）することとされています。駐輪場は東側（現在のバイク置き場）に移設、バイク置き場はその隣に整備される予定です。

健康福祉委員会で、日本共産党は「病院西側は現在もビル風が強く、地域住民が対策を要望してきた。増築による風害の影響をどう考えるか」と質問。病院局の担当者から「4階建てであり影響はないものと思う」との答えがありました。



川崎市立川崎病院再編整備計画（予定図）

「辛かった花粉症シーズン」



花粉ゴーグルを着用

元々は1シーズンに2〜3日くらい「おや？くしゃみが出るな？」という程度だったのですが、7年ほど前から年々、花粉症の症状がひどくなりました。目が痒くてたまらず、掻くと周辺が荒れて、朝起きて目ヤニで目も開かなくなりません。



No. 35 片柳すすむ 日進月歩

薬を飲んでいても辛くて、ピークのときは花粉症用のメガネ（ゴーグル）を着用。道で知り合いの方と出会う時も、相手の方に「誰？」という反応をされてしまい、メガネを外しても一度ご挨拶し失礼をおわびする、ということもありません。ひどい日はだるさや頭痛などもありました。やっとシーズンが終わりほっとしたところで、川崎市は市独自の「花粉飛散状況調査」を6年前に終了してしまいましたが、環境省は「花粉観測システム」で飛散量などの情報を公開しています（「環境省 はなごさん」で検索）ので、そちらをご覧ください。